考えている。とにかく本号がこの地域の沢の特集号としては最後となる。調査も最後の段階ということで，大きな沢はなく，地域的にもあちこち散らばっているが，資料としてご活用していただきたいと思う。

稲子沢本流
~~車ノ沢左俣~~

1985年9月15日
L;

車をデポすることにしていた稲子部落の先，杉沢橋に着いた所で，ニホンザルの群れに会った。ゆうゆうと道路を横切って樹林の中に消えていったが，珍しいものを見せてもらい感激。

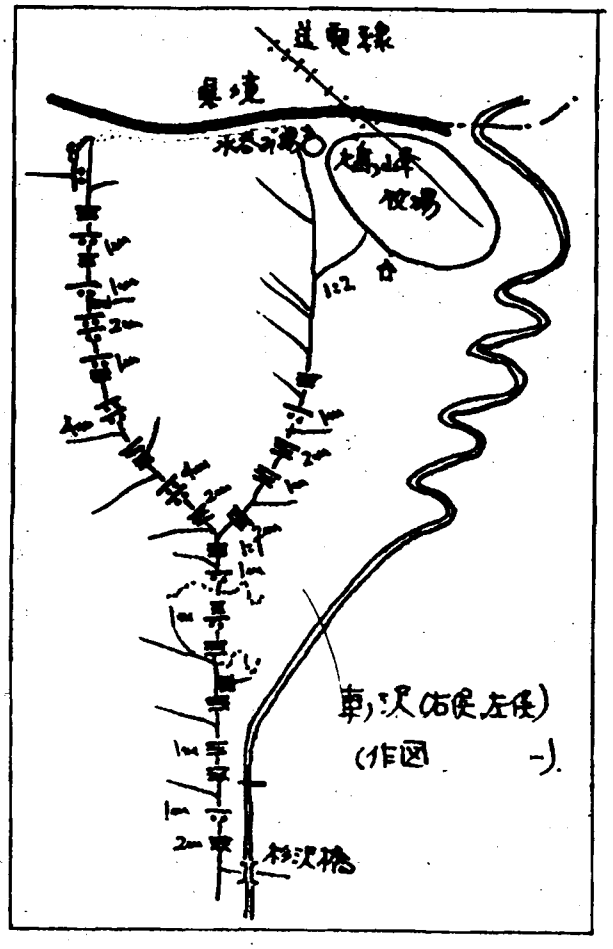
杉沢橋のたもとに車をデポし，沢に下って8:30遡行開始。沢は所々にナメ床状のものがポツリ，ポツリとあるだけで，平凡な河原歩きが続く。そして，我々に先行するかのように釣人の足跡がしっかりとついている。

沢に入って約1時間で二俣となる。左俣を遡行して右俣を下降するということで，まず左俣に入る。

10分といかないうちに4mの滝がかかる。直登で突破。さらにその先に4m。これも直登で突破する。これ以降は，ナメと1～2mの小滝が適当にある。進むにつれて沢の勾配はどんどん急になり，沢幅も狭くなってくる。源頭部に近いあたりで，右岸から8mの滝が落ちていた。

11:20 沢の形態もはっきりしなくなったので遡行終了とし，藪こぎ開始。15分で稜線に飛び出す。

稜線で昼食をとった後，稜線上を北に向かって藪こぎ開始。この稜線は，地図に小道記号が



あるのに，ほんの所々に面影があるだけで，距離にして１km程の間はまったくの藪こぎである。１時間程こいだ所で送電線の下に出て，ようやく藪こぎから解放される。

［タイム］ 遡行開始(8:30)→二俣(9:25)→終了(11:20)→稜線(11:35)→送電線下(12:40)

林檎從記

車ノ沢右俣

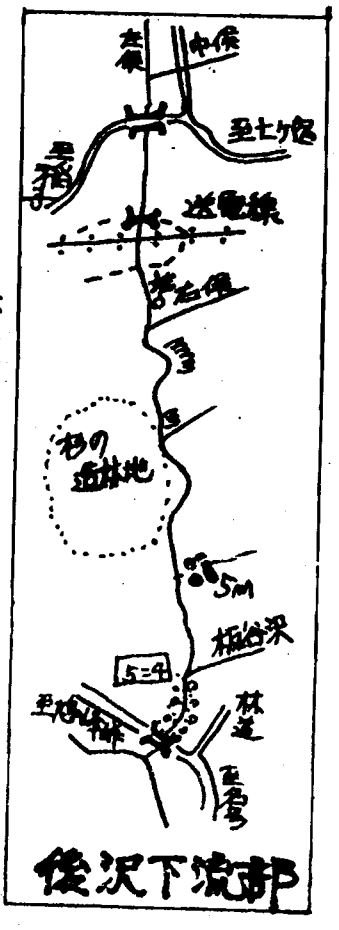
1985年9月15日
L　　守

送電線の管理のため刈り払いされた所を鳩峰牧場に向けて下降。牧場の途中より沢に入る。下降開始点は，牧場の動物達の為の水呑み場であった。

牧場を左手にみながらどんどん下降する。牧場の端あたりで右俣の本流と合流し，更に下降を続ける。そのうち沢は明るくなり，何の変化もないままに二俣となり，本日の予定の行動を終える。

（記・[illegible]一）

［タイム］ 鳩峰牧場・下降開始(13:00)→二俣(14:15)



後沢下流部

1985年7月21日
L　　功

落合橋から遡行を開始する。河原を進んでゆくと，すぐに板谷沢の出合に着く。後沢の方がいくらか水量が多い。このあたりの木々は，いたる所に収穫調査周測の表示がされている。いずれ，伐採される運命にあるようだ。

依然河原歩きが続く。途中，広々とした杉の造林地が現われる。７年生くらいの木がありそうだ。元にもどるにはあと何年かかるのだろうか，気の遠くなる話である。

15:55遡行を開始して1時間10分で七ケ宿に至る道路に出る。ここで遡行を終了とし，道路を歩いて落合橋にもどる。

茂庭の沢を歩いて感じることだが，林野行政は，民間の営利優先の林業では日本の緑を守れないとして，